

## 青井阿蘇神社 / 歴史と、本殿・廊・幣殿・拝殿・楼門の建築物について

青井阿蘇神社は 806 年に建造されたもので、人吉球磨地方に現存する最古の神社です。この神社の現在の建物のほとんどは、1610 年にさかのぼるものですが、いくつかの建築様式を融合したもので、装飾の細部は珍しいものです。青井阿蘇神社の意匠はたいへん統一されており、独特な美学が あ り ま す 。

この美しさは、九州南部一帯にその後建てられた神社にも見ることができます。青井阿蘇神社における建物の統一性は、歴史のある神社には稀なものです。ほとんどの神社では、異なる時代の建物が混在しているからです。楼門、拝殿、幣殿、本殿、およびこれらをつなぐ廊はすべて、国宝に指定されています。

12 世紀から 19 世紀にかけて統治した相良家は、人吉・球磨を統治するよう将軍から任じられた後、この神社を氏神として選びました。

楼門は、この神社の最も特徴的な建築物の一つです。2 階建ての楼門は高さ 12 メートルで、茅葺屋根の四つ角のひさしの下からは、白い鬼の彫刻が顔をのぞかせます。これらは喜怒哀楽を表したもので、この種の彫刻としては日本で唯一知られているものです。各殿と楼門の欄間の彫刻には、儒教的な一連の教えである「二十四孝」が描かれています。その装飾は、華やかな桃山様式 (1573～1615 年) で、12～13 世紀の禅寺建築に一般的な要素が用いられています。

青井阿蘇神社は、3 柱の神々を祀っています。3 柱の神々とは、日本の初代天皇である神武

天皇の男孫である健磐龍（たけいわたつ）、健磐龍の妻である阿蘇津媛（あそつひめ）、およびその子である速甕玉（はやみかたま）です。